

生協10の基本ケア

その6

生協10の基本ケア

- 第1章 換気をする
- 第2章 床に足をつけて座る
- 第3章 トイレに座る
- 第4章 あたたかい食事をする
- 第5章 家庭浴に入る
- 第6章 座って会話をする
- 第7章 町内におでかけをする
- 第8章 夢中になれることをする
- 第9章 ケア会議をする
- 第10章 ターミナルケアをする

「生協10の基本ケア」とは、生協の福祉事業において、その人自身が生活の質（QOL）を高めることを最終目的としたケアで、10項目の方針があります。今回は第8章「夢中になれることをする」、第9章「ケア会議をする」、第10章「ターミナルケアをする」について紹介します。

夢中になれることをする



自分らしく、好きなことに夢中になれる機会や、居場所づくりに取り組みます。「もう歳だから」「もう体が動かないから」など、動くのがおっくうになったり、やる気が起きなかったりする人がいます。特に介護を受けるような状態になったときは、投げやりになってしまうことも。しかし、「もう一度、思い出の地を旅行したい」、「また好きな料理を作りたい」など、自分の好きなことをやりたいという気持ちが芽生えれば、目標を持って生活リハビリを行うことができます。生協10の基本ケアでは、その人らしい生きがいと一緒に見つけ、その実現のために寄り添っています。



ケア会議をする

職員やご家族、ケアマネジャーなどケアに関わる人みんながご本人のしたいことや思いを共有できるようケア会議を開き、ご本人のしたいことを見つけてそれを実行できるようケアプランをつくれます。ご本人を主人公としてチームで取り組み、ご家族を含めてサポートします。



ターミナルケアをする

ターミナルケアは、病気や老衰で余命わずかの人たちが人生の残りの時間を自分らしく過ごし満足して最期を迎えられるようにすることが目的です。つまり、延命治療よりも苦痛や不快感を緩和し、精神的な平穏や残された生活の充実を優先させるケアです。

ターミナルケアにあたって

ターミナルケアでは、その人の人生の最期の時間をどこで誰とどうやって過ごすか、その人にとって何が幸せなのかを考えます。「これで良かった」と後悔がないということではなく、「もっとこうしていれば良かった」という思いがいつも込み上げてきます。そばにいて寄り添うということの大切さを感じ、そういった思いから日々のケアの大切さを感じ、さらにより良いケアにつなげなくてはならないと思います。



ケアセンター戸板 施設長
町出 須美子さん

「生協10の基本ケア」は第1章の「換気をする」から始まり、第10章の「ターミナルケアをする」で完結します。普通の暮らしを取り戻すための生協10の基本ケアで、利用者ひとり一人が望む暮らしを支え、望む最期を迎えられるようこれからも支援していきます。

「生協10の基本ケア」の紹介は
今回で終わりです。
コープいしかわホームページでも、
「生協10の基本ケア」について
掲載しています。

